

## 座標軸

## 田舎力甲子園

球児のひたむきさに今年も胸が熱くなった。夏の甲子園はいつの時代も数々のドラマを生む。決勝で敗れはしたが、本県と同じ北信越地区の星稜高（石川）の戦いぶりは見事だった。

世代屈指の右腕といわれる奥川恭伸選手の力投にナインも奮闘した。3回戦は智弁和歌山高（和歌山）を延長14回タイブレークで下し、準々決勝では控え投手が好投した。団体競技の核となる結束力で勝ち取ったものだ。

甲子園という名称がつく高校生の大会は野球以外でもある。「はんが」「写真」「まんが」など、舞台は変わるが同じようにチームワークを武器に日本一を目指す。そんな中で田舎力甲子園を知ったのは最近のことだ。

地域活性化のアイデアを競うコ

## 活性化を願うひたむきさ

ンテストで、福知山公立大（京都）の実行委員会が実施している。7年目を迎えた今年、佐渡中等教育学校のチームが優勝にあたる最優秀賞を受賞した。

島内のカフェ店の魅力発信と佐渡産食材を使ったスイーツの開発  
・販売を行ったイベントで、若い感性や現実性が評価された。

生徒たちは「アイデアを形にする過程を学び、自信がついた」と手応えを語る。故郷を元気にしたいという純粋な思いと行動力が実を結んだ。

本年度も4、5年生のグループ  
・個人が企画を考え、動き出している。担当教諭らの負担もあると思うが、継続することが学校の伝統になり、全力で取り組んだ子どもたちの財産になる。